令和５年度　第７回安城市教育委員会定例会会議録

日　　時　　令和５年１０月１２日（木）午後１時３０分
場　　所　　教育センター２階　会議室
出席した委員　石川良一　　教育長
　　加藤滋伸　　教育長職務代理者
　　久恒美香　　委　員
　　深津敦司　　委　員
　　中村沙織　　委　員
出席した職員　神谷　徹　　教育振興部長
　　加藤浩明　　生涯学習部長
　　澤田敦至　　総務課長
　　鳥居貴之　　学校教育課長
　　大見徹也　　生涯学習課長
　　津口嘉己　　スポーツ課長
　　邨澤英夫　　文化振興課長
　　杉本慎吾　　総務課庶務係長

傍 聴 者　　なし
　　開　　会　　午後２時４０分

日　　程
　第　１　前回会議録の承認
令和５年９月２８日開催の教育委員会定例会会議録

　第　２　教育長等の報告
　＜教育長＞
９　月２９日　金　現職教育訪問（高棚小）
　　３０日　土　社会を明るくする運動表彰式
１０月　２日　月　教育委員会委員辞令交付式
　　定例記者会見
　　３日　火　現職教育訪問（桜町小）

附属岡崎三校教育懇談会
４日　水　現職教育訪問（三河安城小）
５日　木　臨時幹部会議
「安城創生会」予算要望会
市民ギャラリー「美術で味わう市民ギャラリ
―レストラン」
「歴史のひろば展」観覧
６日　金　現職教育訪問（新田小）
安城選手権大会総合開会式・スポーツ表彰式
７日　土　歴史のひろば展表彰式
１０日　月　現職教育訪問（安城西中）
１１日　火　オカダカズチカ１日警察署長防犯教室（明祥中）
１２日　水　教育委員会定例会
教育委員会臨時会

以上に出席しました。

第　３　議題

議案及び承認事項なし

第　４　報告事項

報告第１号　令和５年度９月議会報告について
報告第２号　令和５年度　全国学力・学習状況調査の結果について
報告第３号　安城市スポーツ表彰者の決定について
報告第４号　第３９回安城市民デンパーク駅伝大会の開催について
報告第５号　令和５年度第２回安城市文化財保護委員会の開催について

学校教育課長：報告第２号について補足説明。

深津委員：実際の調査方法は、質問紙が配られて行いましたか。また、どのような条件下で実施されましたか。

学校教育課長：質問紙を配って行いました。試験が終わってから、時間的には５時間目に行いました。時間を決め、無記名で、前回の調査と

同じ条件で実施しました。

加藤職務代理者：私も全国学力学習状況調査の感想と質問をいたします。私は元英語の教員をやっていたのですが、中学校３年生の英語の結果が大変よくできているということで、結果のところも◎などが多くてうれしく思います。安城市の英語教育は小学校から始まって何年かになりますが、当初私自身は、近隣の他市が小学校から計画的に小中の連携組織をしっかり作っているところもあり、安城市を心配していましたが、この結果を見て少し安心し、うれしく思いました。

実際に、安城西中学校の実践は中日新聞でも大きく取り上げられ、キャッチなどでも授業の様子が放送されたりして、全国的にも模範となる今の学習指導要領に沿った授業としては、安城西中はかなり模範的な学校の一つになっているということがあります。安城市の一般の方々は、安城市の学校が意欲的に英語教育を取り組んでいるということを知らない方もみえると思います。ほかの学校にもいい影響を与えていると思いますので、このような英語教育がこれからも安城市で実践されていくといいなと思ってます。実は、実際に改革をしていく時に、研究指定校、あるいは特定の学校が土台づくりをして実践してもそれがずっと続いていかないということがあります。小・中学校は人事異動が多いため、せっかくそこで育ったものが、他校に行ってなかなか協力を得られずに終わってしまうということがあります。そのため、その辺のことも今後考えていただけたらなと思います。

それから、小中の英語教育の連携という意味で、管理職の方も中心になって取り組んでいただける形を作っていただけたらなと思います。

また、これを見ると、国語と数学を比べたときに、国語よりも算数・数学の方が「好き」と回答している割合が高くなっていますが、これについてどのように考えていますか。

学校教育課長：子供たちが「好き」というのは、ある程度答えができたとか、「できた」という感覚は、やっぱり算数・数学というのは明確であると思います。

国語というのは、答えが「これが答えです」という明確なものが、ある意味見えにくいというところで、そこが国語のおもしろさであると思いますが、正答を求めるという観点からすると、自分が合っていた

かどうか、自信を持って言えるかとなった場合は、やはり数学の方が見える化できる教科なので、その点で国語は曖昧さというか、全体を捉えること、この１点であるということが見えにくい教科ではあると思うので、その点がこの結果に表れていると私は思っています。

加藤職務代理者：教育長はどのようにお考えですか。

石川教育長：今おっしゃられたのが、多分そうだろうなと思いますが、今、教育全体として「正解」というものに向かわない教育というか、自分がどう考えるか、国語はまさにそうだと思います。しかし、先生自身が正解主義にとらわれてきてしまって、この長い物語の主題は何かという問い方を今までの国語教育は割としてきて、そうすると自然に答えが決まってくるものでしたが、今はそれが変わってきていて、自分はこの物語から何をゴールとして見つけ出したのかとか、どこが自分にとってプラスになったかとか、それぞれに正解があるんだっていうふうに変わってきています。しかし、中学校は国語専門の先生が勉強してやっていますが、小学校は国語専門の先生が必ずしも全体になるわけじゃないので、その辺のところの浸透具合も非常に大きいと思います。先生たち自身が国語に苦手意識を持っている、多分１番大きい教科じゃないかなと思ってます。

加藤職務代理者：ありがとうございました。次に議会の答弁について質問です。１０月からということで動き始めているわけですが、それぞれの課で、教育振興部と生涯学習部の関係で、今１番課題になっており、ちょっと困ったなとか、問題かなと思うようなことがあれば１、２点お話をいただければと思います。

生涯学習部長：生涯学習部としまして総括させていただきますと、我々の考え方として、現在は休日部活動が段階的に地域に移行してくという、この機会を捉えまして、子供たちに部活動の続きということではなく、いわゆる生涯学習的な考えといいますか、そういったきっかけとなるような時間や場所を提供させていただきたいということで、御用意をさせていただきました。

その中で、スポーツもいろんなところで取り組めるようにする、文化的な活動でいえば、吹奏楽や美術、合唱といったものも用意させていただいたところでございます。しかし、なかなか解決が難しいのかも

しれませんが、特にここにも答えておりますが、吹奏楽部は大きな楽器を扱う場合があり、例えば、大きな楽器というのが誰でも、ご家庭で普段から持てるのかというところがあって、やはり学校においてある備品として普段からつき合っていただくっていうのが、一般的ではないかと思います。そのような点から、学校の中で活動が土曜日も日曜日もやれるというのが、今現時点での最善の策ではないかと考えております。

加藤職務代理者：大変だと思いますが、安城市は他市と比べて早めに取り組んでいるというお話もありました。やりながら改善策を見つけ、慌てずにやっていただければと思います。ありがとうございます。

教育振興部では何かありますか。

教育振興部長：はい、生涯学習部長がおっしゃった通り、吹奏楽部等の文化部の大きな楽器を運ぶという場所の問題です。

金曜日の下校時に、楽器を運び、また終わったときに体育館から戻すというような負担が制度にあることが問題にあり、学校の中でできないかなということが１つあります。もう１点、多分これは受け皿側の問題だと思いますが、運動部活動は必ず年齢によって引退があり、プレイヤーが指導者になることで団体ができていきます。

ただ、吹奏楽等の文化部については、引退がありませんので、子供たちを教えるという、指導的な役割をする方が運動部よりも伸びが鈍いという状況です。今後学校の先生が兼務でやっていただけるということも視野に入れながら、文化部の方の受け皿を作っていく必要があると思ってます。

加藤職務代理者：ありがとうございました。

深津委員：質問です。先ほどの数学が好きとか、国語は嫌いという話に戻ってしまいますが、この「好き」か「嫌い」という形で答えを求めると、恐らく授業の面白さが１番答える要因になってしまうと思います。特に国語は、なかなか授業で面白いな、楽しいなとなることが少ないと思います。

各学校間のばらつきについて、例えば、数学が好きな人がどのぐらい各学校にいるのか、あるいは国語はどうかというように調べると、大体その学校の授業の面白さがわかるのではないかと思うんですが、そ

ういう点での分析はされてないでしょうか。

学校教育課長：学校間のばらつきは、幾らかはそれぞれ数値が違いますのでありますが、そこで低いから授業が退屈かということに関しては、明確には分析できておりません。

深津委員：答えの仕方が、「好き」とか「嫌い」という形で求めてしまうと、そういうのがかなり反映される可能性が高いと思います。そういうことも踏まえて、分析していただけるといいと思います。

学校教育課長：ただ質問紙については、全国統一のものになるため、これを安城市だけ独自に変えるというわけにもいかないため、分析の仕方を考えていきます。

深津委員：はい、よろしくお願いします。

また、今の吹奏楽部において、教育者が少ないっていうことですが、私の印象では、吹奏楽や美術関係についてもいろんな同好会があり、そのような人達は結構皆さん教えたいと思っているみたいですが、連絡は取りあっていますか。

学校教育課長：はい、連絡は取っています。しかし、大半の学校で取り組んでいるのは、課題曲を練習するという形になります。市の吹奏楽団等の方が、市の吹奏楽団でやっている曲を一緒にやろうというものと、中学生が望むニーズがそこでずれているところがあります。課題曲が全中学校で同じであれば、１市１カ所に集めて練習するということも可能だと思いますが、課題曲が各学校で違うため難しさがあります。それがほかの野球やサッカーと違って難しさがある点だと思っています。

久恒委員：吹奏楽の件ですが、中学生だと自分で楽器を買うにはなかなか厳しいという人が多いと思います。

学校にある置いてある楽器を使わしてもらってる生徒もたくさんいると思います。そういう場合、やっぱりその楽器を持ち出して、ほかの場所で練習するのはなかなか難しく、例えば家で練習するためにちょっと借りてくるのはいいと思いますが、チューバとかを持ってきて違う学校で練習することはなかなか厳しいので、音楽室があるからとかそういうことだけではなくて、そういったとこもやっぱり少し考えていかなければ、一緒に練習するということはなかなか難しいと感じま

した。
あと中学生の日曜教室が始まったと思いますが、参加の希望人数はどれぐらいだったのかが知りたいです。
スポーツ課長：明日からハンドの男女、バレーの男女それから剣道が始まります。
私が把握している参加の人数でいきますと、まずハンドの男子は定員を１人超えまして３１人、ハンドの女子が３０人の定員に対して２８人ぐらいだったと思います。バレーの男女についても定員近くまでの数が入りました。
唯一、剣道だけが５０人の定員に対して２０人ということで、こちらは若干少なかったです。お話を聞いてみると、中学から剣道を始めたため、道場に行くには少し敷居が高いという子が、教室のほうで月２回の剣道をやるというような形で参加をしていただいていると聞いております。
明日から一斉に各中学校で日曜教室が始まります。その状況を見ながら、来年度についてもいろいろと考えていきたいなと考えております。
久恒委員：定員１人超えてしまったというのありましたが、その方は受け入れてもらえましたか。
スポーツ課長：はい、３０人という定員に対して、３５人ぐらいだったら大丈夫ということは事前に聞いておりましたので、余裕を持たせておりました。そのため、期日までに申し込んだ３１名の方は、定員として受け入れる形でやっております。
久恒委員：それはありがたいです。ありがとうございます。
中村委員：部活動の吹奏楽部について、吹奏楽部という部活は、特殊で各パートや楽器によって吹き方が違いますし、打楽器の金管楽器とは、全く畑も違うので、１人の顧問の先生が教えるというのはとても難しいと思います。
保護者の方がおっしゃっていたのですが、自分が昔クラリネットをしていたから、全体への指導は無理だけど自分の専門の楽器だったら教えられる、高校生レベルはちょっと難しいけど、中学生は初心者も多いため指導できるよって言ってくださった方がいました。もしかしたら安城市の中にもそういった能力を秘めた方が隠れているかもしれな

いと思ったので、そのような方に一声かけていただくと吹奏楽部が何とか盛り上がるかなと思いました。

あともう一つ、我が家の子供４人とも吹奏楽部員でしたが、楽器は全て学校のものを使わせていただいてました。

小さい楽器だったら買ってあげることもできたのですが、私の子たちはユーフォニアムやチューバ等の大きい楽器だったため、とても一般家庭で買って、なおかつ置いて置ける場所がないので、学校で楽器を借りられることはとてもうれしかったです。例えば、金曜日の下校時に車で迎えに行って、楽器を積んで持って帰り、家で練習するということもさせていただいたので、経済格差なく、誰もが同じように部活を楽しめたという点で本当に感謝しています。

今後も同じように、誰もが音楽を楽しめるような環境を作っていただきたいなと思います。お願いします。

生涯学習部長：ありがとうございました。地域移行というのがまさにその形だと思います。そのため、今から指導者やお手伝いいただけるような方へのＰＲというのをしっかりしていきたいなと思います。よろしくお願いいたします。

中村委員：話が戻りますが、報告の第２号の９ページになると思います。学校に行くのは楽しいと思いますかというとこで、若干の減りが見られたのが個人的にとても気になりました。なぜかというと、自分にはよいところがある、人の役に立ちたい、そのように思っている子たちがなぜ学校に行きたくないのかなと思った時に、それぞれの事情があると思いますが、私の中で１番これかなと思ったのは、今中学校３年生の子たちは、小学校５年生の３学期からコロナ禍に突入した子たちで、小学校６年間の集大成を担う、自分たちが１番上に立っていろんな行事に取り組むぞって希望に燃えていた矢先に、全ての行事がなくなってしまった絶望感を抱えながら頑張って生きてきた子たちかなと思いました。それは子供だけじゃなくて、親御さんもこの時期だったら運動会や学芸会があったのかなと残念に思いながら頑張って、今、学校行事を盛り立ててくれていると思います。そんな優しくて真面目な子たちなので、自分の感情を内にため込んでしまう傾向があるのではないかなと私は勝手に思いました。

これから彼らは受験を控えているため、ナーバスになることが考えられます。そのため、先生方も保護者も地域の人もみんなで注意深く彼らを見守っていく必要があるかなと思いましたので、よろしくお願いします。

久恒委員：今の話の中でちょっと思ったのが、学校に来てない子はこの学力検査、調査に参加してないということで、不登校の子が今増えている中で、その子たちがどのように思っているのかについても、何かの方法でアンケートをとっていくべきかなと思いました。

例えば、その子たちの方が自己肯定感が低いのかもしれないですが、そういったところはどうしてなのかなとかいろんなことを分析しないといけないので、学校に来れていない人に対してもこの調査に似たものを実施してほしいなと感じました。

学校教育課長：はい、御意見ありがとうございます。

つながりディレクターであるだとか別のアプローチの方法で検討して参ります。

第　５　その他

総務課長：次回は１１月１６日(木)午後１時３０分から教育センターで開催。

閉　　会　　午後２時４０分